

浜の活力再生プラン

1 地域水産業再生委員会

組織名	木曾岬地域水産業再生委員会
代表者名	会長 若松 正雄

再生委員会の 構成員	木曾岬漁業協同組合、木曾岬町
オブザーバー	三重県津農林水産事務所水産室

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	木曾岬漁業協同組合所属組合員 30 名(黒ノリ養殖業経営体 4、小型機船底びき網漁業(シジミ漁業)経営体 11)※複数漁業種類での兼業あり
-------------------	---

2 地域の現状

(1)関連する水産業を取り巻く現状等

木曾岬地区では、木曾川下流～河口部の漁場において、黒ノリ養殖、シジミを対象とした小型機船底びき網漁業を主として、他にもハマグリを対象とした採貝漁業、シラウオ船びき網漁業などが営まれている。

黒ノリ養殖漁場は、木曾川河口部の豊富な栄養塩に恵まれており、支柱柵を用いた養殖で、旨みの強い高品質な黒ノリが生産されている。しかしながら、河口部の漁場ゆえに河川水による低比重の影響を受けやすく、温暖化の影響もあいまって、近年は摘採の開始が遅くなり、年内の生産が厳しい状況にある。さらに、近年消費者のノリ離れが進み、贈答用の売上げが低下するとともに、入札価格も低迷している。このため、環境に対応したノリ養殖生産技術の高度化、付加価値の向上に取り組むとともに、消費者に一枚でも多くノリを食べてもらう消費拡大などにも積極的に取り組む必要がある。

シジミは、木曾川下流部の汽水域で主に小型機船底びき網で漁獲されている。単価は比較的安定しているが、近年資源量の減少が懸念されており、将来も持続的に漁獲できるよう、資源管理が必要であり、同じ漁場で操業する他地区の漁業者と協議しながら実施していくことが必要である。

また、燃油の価格が高騰し、漁船やノリ乾燥機用の燃料、資材の高騰による経費の増大が、漁業者の経営を圧迫している。

さらに、廃業による組合員減少、新規担い手の不足や高齢化により、漁業経営および漁業協同組合経営の悪化が懸念される。

(2)その他の関連する現状等

木曾岬地区は、名古屋市が近く交通の便も良いことから、ベッドタウン化が進行しており、非漁家の住民の割合が増加することで、地区の漁業者同士の繋がりや、祭りをはじめとする漁村文化が衰退しがちである。

その一方で、大消費地の名古屋に近いという大きなメリットを有している。黒ノリやシジミなども含めた魚食離れが進展している中で、この地の利を活かした魚食普及 PR、販売促進などに取り組むことにより、地域の水産業を維持・発展させ、地域創生に役立てていくことが必要である。

3 活性化の取組方針

(1)基本方針

当地区の地先は、木曾川河口の栄養塩が豊富な好漁場であり、ここで生まれ、漁獲生産される養殖黒ノリやシジミなどの水産物は、流通関係者などからの味や品質面での評価が高い。今後もこの地区の漁業

を持続的に継続していくことを目的として、シジミの資源管理による生産の安定化、黒ノリ養殖・生産の創意工夫による高品質化と消費拡大、燃油使用量の削減による漁業コストの削減等に取り組むことにより、所得の向上を図る。

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

1. 黒ノリ養殖業

- ・桑名漁連の漁業権行使規則を遵守する。
- ・伊勢湾藻類漁場利用計画で定められた、適正養殖可能数量内の柵数で生産を行う。

2. 小型機船底びき網漁業(シジミ漁業)

- ・県漁業調整規則、漁業許可の制限・条件、桑名漁連の漁業権行使規則を遵守する。
- ・木曾三川シジミ漁業協議会に加入し、資源管理に関する規定を遵守する。

(3) 具体的な取組内容(毎年ごとに数値目標とともに記載)

1年目(平成27年度)

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組により、漁業収入を基準年より 2.3%向上させる。なお、取組内容は、進捗状況や成果等を踏まえ、必要に応じて見直すこととする。</p> <p>1. 黒ノリ養殖業の活性化と所得向上対策</p> <p>1) 海域特性に対応した生産向上体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢湾藻類漁場利用計画で定められた、4,192 以内の柵数に抑え、病害にかからない健全な養殖に取り組む。 ・県水産研究所の栄養塩情報や漁連のノリ情報等で、水温、潮位、病害発生などの状況を把握し、地域の海況に応じた養殖に取り組む。 ・陸上採苗による種付けを開始し、それぞれの養殖方法に適した芽付数および養生・育苗等の網管理手法を検討し、良い種網作りに取り組む。 ・育苗期にノリ芽検診を受け、健全な種網確保に取り組む。 ・三重県が新たに養殖用品種として開発し、漁連と共にブランド化に取り組む「伊勢あさくさのり」の養殖生産量の拡大に取り組む。 <p>※アサクサノリは、葉体が薄く軟らかく、味や香りが良いことから希少価値が高く、通常の黒ノリと比較して少量でも高値で取引される。基準年(平成25年度)時点では本地区で「伊勢あさくさのり」の養殖生産量は0であるが、平成31年度までに黒ノリ生産量の1%まで拡大することを目標とする。</p> <p>2) 黒ばらノリの生産等による付加価値の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノリの消費を拡大するため、消費者の食のニーズに対応し、新たな付加価値を向上した黒ばらノリの製造に取り組む。 <p>※黒ばらノリは、ノリを板状に成形せず、原藻を粗切りした状態のまま乾燥させたものであり、板ノリより味と香りに深みがあり、栄養が豊富なため単価が高いのが特徴である。</p> <p>3) ノリの認知度向上と食育に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒ノリ PR 資料を作成・配布し、木曾岬のノリの認知度の向上に取り組む。 ・木曾岬幼稚園、小学校、中学校の給食へ焼きノリを提供し、子供達に地元の黒ノリの味を知ってもらう取組を行う。 ・地域でのイベント等にて、試食、販売、資料配付などを行い、木曾岬のノリの認知度の向上に取り組む。 ・焼きノリの卓上用パッケージを地域イベント(産業文化祭り、桜まつりなど)等にて活
---------------------	--

	<p>用し、木曾岬のノリの認知度向上に取り組む。</p> <p>2. シジミ漁業の活性化と所得向上対策</p> <p>1) 資源管理の実施による所得向上</p> <p>シジミ漁業に関して、関係機関等とも連携のうえ、以下の自主的な資源管理に取り組む。</p> <p>①木曾三川シジミ漁業協議会に参加し、資源管理に取り組む。</p> <p>②操業日数を週3日(月、水、金)に制限することによる資源管理に取り組む。</p> <p>③操業時間を日の出～正午までに制限することによる資源管理に取り組む。</p> <p>④一人一日あたりの漁獲量の上限を180キロまでとする総量の規制に取り組む。</p> <p>⑤小型貝を保護するために、出荷できるサイズは8mm以上のフルイにかけたものとするサイズの規制に取り組む。</p> <p>2) シジミの認知度向上と食育に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木曾岬幼稚園、小学校、中学校の給食へのシジミ提供を行い、子供達にシジミの味を知ってもらい、木曾岬のシジミの認知度向上に取り組む。 ・木曾岬町は名古屋市と幹線道路で連結しており、地元民だけでなく、県外からの観光客をターゲットに地域のイベント(産業文化祭り、桜まつりなど)等を活用したPR活動を行い、木曾岬のシジミの認知度向上に取り組む。 ・木曾川干潟でのシジミ観察会など、学校などと協働で、子供への教育に取り組み、木曾岬のシジミの認知度向上に取り組む。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により、燃油消費量を1%削減することにより、コストを削減させる。なお、取組内容は、進捗状況や成果等を踏まえ、必要に応じて見直すこととする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁船の減速航行、定期的な船底清掃等により燃油の使用量を減らし、漁労コストの削減に取り組む。 ・漁船エンジン更新の際に環境対応型機器を導入することにより、燃油の使用量を減らし、漁労コストを削減する。 ・ノリ全自動乾燥機の更新時には省エネタイプを採用することにより、重油の使用量を減らしコストを削減する。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティーネット構築等事業</p>

2年目(平成28年度)

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組により、漁業収入を基準年より4.6%向上させる。なお、前年度の漁獲実績、資源状況、進捗状況や成果等を踏まえ、必要に応じて内容を見直したうえで取組をさらに推進する。</p> <p>1. 黒ノリ養殖業の活性化と所得向上対策</p> <p>1) 海域特性に対応した生産向上体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢湾藻類漁場利用計画で定められた、4,192以内の柵数に抑え、病害にかからない健全な養殖に取り組む。 ・県水産研究所の栄養塩情報や漁連のノリ情報等で、水温、潮位、病害発生などの状況を把握し、地域の海況に応じた養殖に取り組む。 ・陸上採苗による種付けを開始し、それぞれの養殖方法に適した芽付数および養生・
---------------------	--

	<p>育苗等の網管理手法を検討し、良い種網作りに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育苗期にノリ芽検診を受け、健全な種網確保に取り組む。 ・県が培養に成功し、漁連と共にブランド化に取り組む「伊勢あさくさのり」の養殖・生産に取り組む。 <p>2) 黒ばらノリの生産等による付加価値の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノリの消費を拡大するために、板ノリより味と香りに深みがあり、栄養が豊富なため単価が高い黒ばらノリの生産を拡大し、黒ばらノリの認知度向上および販売促進に取り組む。 <p>3) ノリの認知度向上と食育に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒ノリ PR 資料を作成・配布し、木曾岬のノリの認知度の向上に取り組む。 ・木曾岬幼稚園、小学校、中学校の給食へ焼きノリを提供し、子供達に地元の黒ノリの味を知ってもらう取組を行う。 ・地域でのイベント等にて、試食、販売、資料配付などを行い、木曾岬のノリの認知度の向上に取り組む。 ・焼きノリの卓上用パッケージを地域イベント(産業文化祭り、桜まつりなど)で活用するだけでなく、交流事業として長野県木曾郡木祖村の道の駅「木曾川源流の里 きそむら げんき屋」に交流コーナーを設置し、木曾岬のノリの認知度向上に取り組む。 <p>2. シジミ漁業の活性化と所得向上対策</p> <p>1) 資源管理の実施による所得向上</p> <p>シジミ漁業に関して、関係機関等とも連携のうえ、以下の自主的な資源管理に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①木曾三川シジミ漁業協議会に参加し、資源管理に取り組む。 ②操業日数を週 3 日(月、水、金)に制限することによる資源管理に取り組む。 ③操業時間を日の出～正午までに制限することによる資源管理に取り組む。 ④一人一日あたりの漁獲量の上限を 180 キロまでとする総量の規制に取り組む。 ⑤小型貝を保護するために、出荷できるサイズは 8 mm 以上のフルイにかけたものとするサイズの規制に取り組む。 <p>2) シジミの認知度向上と食育に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木曾岬幼稚園、小学校、中学校の給食へのシジミ提供を行い、子供達にシジミの味を知ってもらい、木曾岬のシジミの認知度向上と魚食普及を図る。 ・地元民だけでなく、名古屋市などの県外からの観光客をターゲットに地域のイベント(産業文化祭り、桜まつりなど)等を活用した PR 活動を行い、木曾岬のシジミの認知度向上に取り組む。 ・木曾川干潟でのシジミ観察会など、学校などと協働で、子供への教育に取り組み、木曾岬のシジミの認知度向上に取り組む。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により、燃油消費量を 2%削減することにより、コストを削減させる。なお、取組内容は、進捗状況や成果等を踏まえ、必要に応じて見直すこととする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁船の減速航行、定期的な船底清掃等により燃油の使用量を減らし、漁労コストの削減に取り組む。 ・漁船エンジン更新の際に環境対応型機器を導入することにより、燃油の使用量を減らし、漁労コストを削減する。 ・ノリ全自動乾燥機の更新時には省エネタイプを採用することにより、重油の使用量を減らしコストを削減する。

活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築等事業
-----------	--------------------

3年目(平成29年度)

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組により、漁業収入を基準年より 6.9%向上させる。なお、前年度の漁獲実績、資源状況、進捗状況や成果等を踏まえ、必要に応じて内容を見直したうえで取組をさらに推進する。</p> <p>1. 黒ノリ養殖業の活性化と所得向上対策</p> <p>1) 海域特性に対応した生産向上体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢湾藻類漁場利用計画で定められた、4,192以内の柵数に抑え、病害にかからない健全な養殖を推進する。 ・県水産研究所の栄養塩情報や漁連のノリ情報等で、水温、潮位、病害発生などの状況を把握し、地域の海況に応じた養殖を推進する。 ・陸上採苗による種付けを行う。それぞれの養殖方法に適した芽付数および養生・育苗等の網管理手法を検討し、良い種網作りの取組を推進する。 ・育苗期にノリ芽検診を受け、健全な種網確保の取組を推進する。 ・県が培養に成功し、漁連と共にブランド化に取り組む「伊勢あさくさのり」の養殖・生産を推進する。 <p>2) 黒ばらノリの生産等による付加価値の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノリの消費を拡大するために、板ノリより味と香りに深みがあり、栄養が豊富なため単価が高い黒ばらノリの生産を拡大し、黒ばらノリの認知度向上および販売促進に取り組む。 <p>3) ノリの認知度向上と食育に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒ノリ PR 資料を作成・配布し、木曾岬のノリの認知度の向上の取組を推進する。 ・木曾岬幼稚園、小学校、中学校の給食へ焼きノリを提供し、子供達に地元の黒ノリの味を知ってもらう取組を推進する。 ・地域でのイベント等にて、試食、販売、資料配付などを行い、木曾岬のノリの認知度の向上の取組を推進する。 ・焼きノリの卓上用パッケージを地域イベント(産業文化祭り、桜まつりなど)で活用するだけでなく、交流事業として長野県木曾郡木祖村の道の駅「木曾川源流の里 きそむら げんき屋」に交流コーナーを設置し、木曾岬のノリの認知度向上および販売促進に取り組む。 <p>2. シジミ漁業の活性化と所得向上対策</p> <p>1) 資源管理の実施による所得向上</p> <p>シジミ漁業に関して、関係機関等とも連携のうえ、以下の自主的な資源管理の取組を推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 木曾三川シジミ漁業協議会に参加し、資源管理の取組を推進する。 ② 操業日数を週 3 日(月、水、金)に制限することによる資源管理の取組を推進する。 ③ 操業時間を日の出～正午までに制限することによる資源管理の取組を推進する。 ④ 一人一日あたりの漁獲量の上限を 180 キロまでとする総量規制の取組を推進する。
---------------------	--

	<p>⑤小型貝を保護するために、出荷できるサイズは8mm以上のフルイにかけたものとするサイズ規制の取組を推進する。</p> <p>2) シジミの認知度向上と食育に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木曾岬幼稚園、小学校、中学校の給食へのシジミ提供を行い、子供達にシジミの味を知ってもらい、木曾岬のシジミの認知度向上と魚食普及を図る。 ・地元民だけでなく、名古屋市などの県外からの観光客をターゲットに地域のイベント（産業文化祭り、桜まつりなど）等を活用したPR活動を行い、木曾岬のシジミの認知度向上に取り組む。 ・木曾川干潟でのシジミ観察会など、学校などと協働で、子供への教育に取り組み、木曾岬のシジミの認知度向上の取組を推進する。
漁業コスト削減のための取組	<p>以下の取組により、燃油消費量を3%削減することにより、コストを削減させる。なお、取組内容は、進捗状況や成果等を踏まえ、必要に応じて見直すこととする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁船の減速航行、定期的な船底清掃等により燃油の使用量を減らし、漁労コストの削減を推進する。 ・漁船エンジン更新の際に環境対応型機器を導入することにより、燃油の使用量を減らし、漁労コストを削減する。 ・ノリ全自動乾燥機の更新時には省エネタイプを採用することにより、重油の使用量を減らしコストを削減する。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築等事業

4年目(平成30年度)

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組により、漁業収入を基準年より9.2%向上させる。なお、前年度の漁獲実績、資源状況、進捗状況や成果等を踏まえ、必要に応じて内容を見直したうえで取組をさらに推進する。</p> <p>1. 黒ノリ養殖業の活性化と所得向上対策</p> <p>1) 海域特性に対応した生産向上体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢湾藻類漁場利用計画で定められた、4,192以内の柵数に抑え、病害にかからない健全な養殖を行うことで、生産量を増大させ、所得向上を図る。 ・県水産研究所の栄養塩情報や漁連のノリ情報等で、水温、潮位、病害発生などの状況を把握し、地域の海況に応じた養殖を行うことにより、生産量を増大させ、所得向上を図る。 ・陸上採苗による種付けを行う。それぞれの養殖方法に適した芽付数および養生・育苗等の網管理手法を確立し、良い種網を作ることにより、生産量を増大させ、所得の向上を図る。 ・育苗期にノリ芽検診を受け、健全な種網を確保することにより、生産量を増大させ、所得向上を図る。 ・県が培養に成功し、漁連と共にブランド化に取り組む「伊勢あさくさのり」を養殖・生産し、付加価値を向上させ、所得向上を図る。 <p>2) 黒ばらノリの生産等による付加価値の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノリの消費を拡大するために、板ノリより味と香りに深みがあり、栄養が豊富なため単価が高い黒ばらノリの生産を拡大し、黒ばらノリの認知度向上および販売促進で漁業収入の向上を図る。 <p>3) ノリの認知度向上と食育に関する取組</p>
--------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・黒ノリ PR 資料を作成・配布し、木曾岬のノリの認知度を向上させることにより、魚食普及を図る。 ・木曾岬幼稚園、小学校、中学校の給食へ焼きノリを提供し、子供達に地元の黒ノリの味を知ってもらい、木曾岬のノリの認知度を向上させることにより、魚食普及を図る。 ・地域でのイベント等にて、試食、販売、資料配付などを行い、木曾岬のノリの認知度を向上させることにより、消費拡大を図る。 ・焼きノリの卓上用パッケージを地域イベント(産業文化祭り、桜まつりなど)で活用するだけでなく、交流事業として長野県木曾郡木祖村の道の駅「木曾川源流の里 きそむら げんき屋」に交流コーナーを設置し、木曾岬のノリの認知度向上および販売促進に取り組む。 <p>2. シジミ漁業の活性化と所得向上対策</p> <p>1) 資源管理の実施による所得向上</p> <p>シジミ漁業に関して、関係機関等とも連携のうえ、以下の自主的な資源管理の取り組みを実践することで、所得の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①木曾三川シジミ漁業協議会に参加し、資源管理の取組を推進することにより、生産量を安定・増大させ、所得の向上を図る。 ②操業日数を週3日(月、水、金)に制限することにより、生産量を安定・増大させ、所得の向上を図る。 ③操業時間を日の出～正午までに制限することにより、生産量を安定・増大させ、所得の向上を図る。 ④一人一日あたりの漁獲量の上限を 180 キロまでとする総量規制に取り組むことで、生産量を安定・増大させ、所得の向上を図る。 ⑤小型貝を保護するために、出荷できるサイズは 8 mm以上のフルイにかけたものとする事により、年間通じた生産量を安定・増大させ、所得の向上を図る。 <p>2) シジミの認知度向上と食育に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木曾岬幼稚園、小学校、中学校の給食へのシジミ提供を行い、子供達にシジミの味を知ってもらい、木曾岬のシジミの認知度を向上させることにより、魚食普及を図る。 ・地元民だけでなく、名古屋市などの県外からの観光客をターゲットに地域のイベント(産業文化祭り、桜まつりなど)等を活用した PR 活動を行い、木曾岬のシジミの認知度向上と消費拡大に取り組む。 ・木曾川干潟でのシジミ観察会など、学校などと協働で、子供への教育に取り組み、木曾岬のシジミの認知度を向上させることにより、魚食普及を図る。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により、燃油消費量を 4%削減することにより、コストを削減させる。なお、取組内容は、進捗状況や成果等を踏まえ、必要に応じて見直すこととする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁船の減速航行、定期的な船底清掃等により燃油の使用量を減らし、漁労コストの削減を図る。 ・漁船エンジン更新の際に環境対応型機器を導入することにより、燃油の使用量を減らし、漁労コストを削減する。 ・ノリ全自動乾燥機の更新時には省エネタイプを採用することにより、重油の使用量を減らしコストを削減する。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティーネット構築等事業</p>

5年目(平成31年度)

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組により、漁業収入を基準年より 11.6%向上させる。なお、前年度の漁獲実績、資源状況、進捗状況や成果等を踏まえ、必要に応じて内容を見直したうえで取組をさらに推進する。</p> <p>1. 黒ノリ養殖業の活性化と所得向上対策</p> <p>1) 海域特性に対応した生産向上体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none">・伊勢湾藻類漁場利用計画で定められた、4,192以内の柵数に抑え、病害にかからない健全な養殖を行うことで、生産量を増大させ、所得向上を図る。・県水産研究所の栄養塩情報や漁連のノリ情報等で、水温、潮位、病害発生などの状況を把握し、地域の海況に応じた養殖を行うことにより、生産量を増大させ、所得向上を図る。・陸上採苗による種付けを行う。それぞれの養殖方法に適した芽付数および養生・育苗等の網管理手法を確立し、良い種網を作ることにより、生産量を増大させ、所得の向上を図る。・育苗期にノリ芽検診を受け、健全な種網を確保することにより、生産量を増大させ、所得向上を図る。・県が培養に成功し、漁連と共にブランド化に取り組む「伊勢あさくさのり」を養殖・生産し、付加価値を向上させ、所得向上を図る。 <p>2) 黒ばらノリの生産等による付加価値の向上</p> <ul style="list-style-type: none">・ノリの消費を拡大するために、板ノリより味と香りに深みがあり、栄養が豊富なため単価が高い黒ばらノリの生産を拡大し、黒ばらノリの認知度向上および販売促進で漁業収入の向上を図る。 <p>3) ノリの認知度向上と食育に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none">・黒ノリ PR 資料を作成・配布し、木曾岬のノリの認知度を向上させることにより、魚食普及を図る。・木曾岬幼稚園、小学校、中学校の給食へ焼きノリを提供し、子供達に地元の黒ノリの味を知ってもらい、木曾岬のノリの認知度を向上させることにより、魚食普及を図る。・地域でのイベント等にて、試食、販売、資料配付などを行い、木曾岬のノリの認知度を向上させることにより、消費拡大を図る。・焼きノリの卓上用パッケージを地域イベント(産業文化祭り、桜まつりなど)で活用するだけでなく、交流事業として長野県木曾郡木祖村の道の駅「木曾川源流の里 きそむら げんき屋」に交流コーナーを設置し、木曾岬のノリの認知度向上および販売促進に取り組む。 <p>2. シジミ漁業の活性化と所得向上対策</p> <p>1) 資源管理の実施による所得向上</p> <p>シジミ漁業に関して、関係機関等とも連携のうえ、以下の自主的な資源管理の取り組みを実践することで、所得の向上を図る。</p> <ol style="list-style-type: none">① 木曾三川シジミ漁業協議会に参加し、資源管理の取組を推進することにより、生産量を安定・増大させ、所得の向上を図る。② 操業日数を週3日(月、水、金)に制限することにより、生産量を安定・増大させ、所得の向上を図る。
--------------	--

	<p>③ 作業時間を日の出～正午までに制限することにより、生産量を安定・増大させ、所得の向上を図る。</p> <p>④ 一人一日あたりの漁獲量の上限を 180 キロまでとする総量規制に取り組むことで、生産量を安定・増大させ、所得の向上を図る。</p> <p>⑤ 小型貝を保護するために、出荷できるサイズは 8 mm 以上のフルイにかけたものとするにより、年間通じた生産量を安定・増大させ、所得の向上を図る。</p> <p>2) シジミの認知度向上と食育に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木曾岬幼稚園、小学校、中学校の給食へのシジミ提供を行い、子供達にシジミの味を知ってもらい、木曾岬のシジミの認知度を向上させることにより、魚食普及を図る。 ・地元民だけでなく、名古屋市などの県外からの観光客をターゲットに地域のイベント（産業文化祭り、桜まつりなど）等を活用した PR 活動を行い、木曾岬のシジミの認知度向上と消費拡大に取り組む。 ・木曾川干潟でのシジミ観察会など、学校などと協働で、子供への教育に取り組み、木曾岬のシジミの認知度を向上させることにより、魚食普及を図る。
漁業コスト削減のための取組	<p>以下の取組により、燃油消費量を 5% 削減することにより、漁業コストを基準年の漁業所得より 1.9% 削減する。なお、取組内容は、進捗状況や成果等を踏まえ、必要に応じて見直すこととする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁船の減速航行、定期的な船底清掃等により燃油の使用量を減らし、漁労コストの削減を図る。 ・漁船エンジン更新の際に環境対応型機器を導入することにより、燃油の使用量を減らし、漁労コストを削減する。 ・ノリ全自動乾燥機の更新時には省エネタイプを採用することにより、重油の使用量を減らしコストを削減する。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築等事業

(4) 関係機関との連携

これらの計画内容が十分発揮されるよう、木曾岬町、県（県庁、津農林水産事務所、水産研究所など）、桑名漁連、三重県漁連と情報共有しながら、連携して取り組んで行く。

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上 以上	%	基準年	平成	年度：漁業所得	千円
		目標年	平成	年度：漁業所得	千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性(30 経営体)

--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティーネット構築等事業	燃油高騰が漁業経営を圧迫して悪化する影響の緩和を図る。